

令和元年度第2回大磯町社会教育委員会議 議事録

1. 日時 令和元年12月12日(木)
午前10時00分～正午

2. 場所 郷土資料館研修室

3. 出席者 櫻田 憲一 議長
池田伊三郎 副議長
簗 島 肇 委員
上野 広子 委員
大友さやか 委員
鈴木 水美 委員
鈴木 敦子 委員

以上7名

事務局 教育部長 仲手川 孝
生涯学習課長 波多野昭雄
副課長 北水 慶一
副主幹兼係長 佐宗 幸子

4. 傍聴者 1名

(開 会)

- ・会議成立の確認
- ・会議公開の確認
- ・傍聴者の有無確認
- ・資料の確認

(傍聴者 1名入室)

5. 議事

【議題1 令和元年度生涯学習関係主要事業の進捗状況について】

事務局から【資料番号1】「令和元年度生涯学習関係主要事業の進捗状況について」に基づき説明を行いました。

- ・生涯学習係の主要8事業について、令和元年度の進捗状況を説明
議 長) 質問等特にありませんので、次の議題へお願いします。

【議題2 大磯町生涯学習推進計画及び生涯学習アンケートについて】

事務局から【資料番号2】「大磯町生涯学習推進計画及び生涯学習アンケートについて」に基づき説明を行いました。

・大磯町生涯学習に関するアンケート(案)について

- 1) H24年度、H30年度実施のアンケート分析の概要説明
- 2) 計画指標の項目検討
- 3) 令和2年度アンケートと平成24年、平成30年アンケートの設問比較

委員) 生涯学習とは学びだと思えます。「一生涯学ぶ」という方針があると思えますが「生涯学習推進計画」の冊子の後半に、自由意見の記載欄があり、たくさんのお意見を頂いています。この意見を次の計画に反映できるように、アンケートの設問を考えていく必要があると思えます。

また、このアンケートは、前回の結果と比較すると言う事であれば分かりますが、生涯学習の認知度を向上させる、という意味でこれはあまり意味がないと思えます。

生涯学習に対する認識も年齢層によって変わります。子育て世代は、教育に関する事や子どもの将来についての学び、子育てが終わった世代は、次の世代へ何かを伝えて行くなど、年齢層によって違った学びがあり、それが生涯にわたって続いていくと思えます。そういうところを反映していく事が、大磯町の生涯学習に対する考え方になると思えます。

今回のアンケートが、そのように考えられているのか疑問を感じます。

事務局) アンケート内容を考える中で、平成25年度に策定した当時の状況を分かっている者が係内におらず、その時の空気感や内容について深く掘り下げることが難しい状況ですので、今頂いたご意見は非常にありがたいと思えます。

アンケートの目的としては、まず、平成25年度に策定したアンケートで指標としているものの、現状値、中間目標値、最終目標値、その推移を追うために、同じ設問を設けているところがあります。

また、新たな計画を策定していく上で、新しく指標値となるものを設定し、それを実現するため目標値を設定するというところもあります。このため、前回のアンケートと似かよった設問もあります。

アンケートの中に自由記述の欄があり、その中から拾い上げた、好意的な意見や批判的な意見、「生涯学習ってなに」というような根本的なご意見も含め、頂いたいろいろな意見を分析し、先ほどご説明させて頂いたことも含め、今回のアンケート案を作ったという状況です。

委員) 「生涯学習が必要かどうか」の設問については、非常に答えにくい気がします。前回の、「成果をどのようなことに活かしたいか」の方が前向きで良い

のではないのでしょうか。必要かどうかだけでは、アンケートを貰った人が、自分が必要かどうか、だけの判断になってしまうので、もう少し言葉を理解してもらって推進して行こう、と言う事にはならない。出だしをもう少し変えた方がいいと思います。「生涯学習の活動を行っていない理由」についても、生涯学習とは何かを知らない人にとっては、答えにくいので、「参加していますか」という言い方にした方がいいと思います。

このアンケート案で進めて行くということでもいいのでしょうか。

事務局) これはアンケートの案ですので、委員の皆さんから頂いたご意見を反映させていきたいと考えております。

委員) いくつか指摘させてもらいますが、指標の「生涯学習をしている町民の割合」についてですが、「生涯学習」という概念からすれば、ほとんどの方が学習していると思います。生涯学習の定義付けがありますが、この定義に沿って考えると、ほとんどの方が行っていると思いますが、なぜこのような割合になるかという、アンケートの設問に問題があると思いますので、そこを改善するべきだと思います。

例えば、「生涯学習の施策や施設、場を利用していますか」とする設問だと回答率が下がると思います。ところが、「個人として生涯学習をやっている人」とすると、図書館へ行って本を借りて読むなども生涯学習ですから、学習していない方は逆に少ないと思いますので、聞き方を変えればこの指標はすぐに上がると思います。

行政として考えなければならないのは、生涯学習推進の施策を立て、施設や機会を設けて、それを活用してもらう必要がありますので、町民の皆様がそれをどう活用していたのか、どう参加していたのかを分析していく必要があると思いますし、そういう聞き方にすれば数字ももっと変化すると思います。なぜそう思ったかという、アンケートには「参加」と書いてあります。参加というと、何かあるものに参加すると考えてしまい、自分では学習しているが、そういうところには参加していない、と思い参加していないという回答になってしまいます。逆に言うと、町民の生涯学習について、行政側がどのようにイメージしているのところが不分明なので、分けて聞いた方がいいと思います。生涯学習について、個人としてどう考えているか、どのような活動をしているのか、参加しているのかなどを、生涯学習課としては把握しておく必要があると思います。考え方とか係わり方とか、ただ、行政側が生涯学習を推進していく上での施策について、どのようなことを知っているのか、参加・利用しようとしていたのか、そこポイントだと思います。社会教育委員としては、町民の全般のことについて知りたいのですが、知りたいことがごちゃ混ぜになってしまっている。そうすると、答える方もよく

わからない。先ほどの委員さんのご指摘の通りだと思います。
それが整理されれば、恐らく回答の結果が変わるのではないかと思います。
また、指標の数値も変わるのではないかと思います。

事務局) アンケート案についてご意見を頂いている状況なので、設問等の修正、変更は可能です。

委員) 改めて、このリーフレットを読んでみると「学校教育は当然のこと」と書いてあります。学校教育は100%みんな受けているなどか、学校教育まで生涯学習と言うのか、というところに、私もまだまだ整理ができていなかったなと感じています。

私たちが一般的にイメージする生涯学習とは、学校教育に関わっている間はもちろん、働いている間はほとんどできないなと思っています。本を借りるぐらいならできると思いますが、どこかの生涯学習のイベントに出向いて、加わるなどはできにくいと思います。参加できるのは、家にいる方や仕事を退職された方が行うというイメージでいます。でも、学校教育もとなると、学校で行われている部活動なども入るのかとか思います。

何のためにこのアンケートを行うかと言うと、これからに生かしていくため、そのために予算や労力をかけて行うのだと思います。そうすると私たちがニーズとして持っているものは、前回の社会教育委員会会議の中で申し上げたのですが、ラディアンみたいな施設があるといいなどか、もっと使いやすい公共施設があったらいいのにとか、定員制でなく、ふらっと参加できるイベントがあったらいいな、子育てしながら、子どもを連れて行けるような広い生涯学習があったらいいのに、などのつぶやきが聞かれる中で、そのようなつぶやきを拾い出していけるような形がいいと思います。実際にこのアンケートというよりか、つぶやきの方にとっても興味があります。せっかくアンケートをやるのであれば、「生涯学習を行っていますか」とか「どう思いますか」とかそういう漠然としたアンケートよりも、具体的に、直結するようなアンケートになるといいなと思っています。

事務局) ありがとうございます。

委員) ここで学んで帰りたいのですが、生涯学習は実際どこまでが入るのでしょうか。

というのは、自分がアンケートを求められているのかと思い、一生懸命読んだのですが、アンケートのグレーの部分を見ると何でも生涯学習に入っているように見えるのですが、カラーのパンフレットを見ると生涯学習活動をしている人が50%しかいないと書いてあります。では、趣味は入らないのか

など思ってしまいましたし、団体やサークルでの活動と表現されていたので、団体やサークルに所属しないで、個人的に面白いなと思って小説を読んだりすることは生涯学習に入るのかとか、どのカテゴリーについて答えればいいのかとか、非常に混乱しました。生涯学習とは何かを改めて学びたいなと思ってきました。

事務局) ありがとうございます。比較的団体で行う教育というところが目立つのですが、あくまで個人でやっている読書や鑑賞なども生涯学習に結びつくもので、本当に幅が広いものになります。

カラーの方は、生涯学習推進計画のダイジェスト版になりますので、あくまで参考になります。

委員) では、アンケートの方だけ見ればよいのでしょうか。

事務局) そうですね。今言われましたとおり、先ほど委員も言われていますが「生涯学習ってなに」というところがわかりにくいと思います。その部分をアンケートのグレーの部分でご理解いただけるかと思ったのですが、これだけだとちょっと弱いと言う事ですね。

委員) 大々的に紙面を割いて、こんなに何でも、人生の学び全てが生涯学習なのだ、それを町は豊かにして行きたいと言う思いを、ここにバンと書けば700人が受け取るので、次のアンケートの時には確実に700人の生涯学習に対する認知度も変わっているはずです。現に1,700人のアンケートをとっていたにも関わらず生涯学習という言葉が浸透していないのは、アンケートが広報としての機能を果たしていなかったからかなと思います。自分にはあまり関係なさそうなので、答えないという残念な結果になったのかなと思います。

委員) どういうものが生涯学習なのか、皆さんが知らないと言う事だと思います。私も色々な事を行っていますが、全てが生涯学習に入るのではないかと思います。しかし、行っている事が生涯学習ですよ、という事が誰からも出てこない。参加しているけれども、ただ参加している、自分のために参加していると言う認識だけで、生涯学習だと把握されていないと思います。ですから、アンケートがきても、わからないのではないかと思います。きたアンケートを見て、初めて生涯学習だと認識する方もいると思います。

問6の「生涯学習に興味がありますか」と聞かれても、それが何だかわからない。そして、問8、問9あたりでやっと、こういうことが生涯学習だと言う事がわかってくる。ここは順番を逆にしてもいいのではないのでしょうか。

それから、健康・スポーツこれは、リーダー的な事をしている人なのか、

町で行っているものに参加している人の事を言っているのか、これだけだとわからない。健康・スポーツ・福祉にしても、主導的・主催者としてやっているのか、参加者としてやっていたらいいのか、ちょっとわかりにくい。

あともう1点、後期高齢者の方でもアンケート調査をやっているの、他のアンケートと時期をずらしてやって欲しいと思います。

事務局) ご意見ありがとうございました。

委員) ちなみに前回のアンケートの回答率についてですが、ほぼ全部100%近く返送されてくるのですか。返送されないものも結構あるのですか。

委員) 前は、39.4%。約4割くらいでした。

委員) 生涯学習という言葉より「学びについて」の方がわかりやすいと思います。一生勉強しましょうと言う事ではなく、誰もが常に勉強しているんです。皆さんわからないことがあれば調べますよね。これが学びだと思います。

議長) そういう意味では、社会教育の内容になってきます。全国的に社会教育という言葉がなくなってきているようですが。

委員) キャリア教育がそれに当たるのではないのでしょうか。

委員) 「生涯学ぶ」と言う方がわかりやすく、納得できるかもしれません。

委員) 学校教育が終わった後で、学びをどういう場でしたらいいのかなど、そういう問いかけの方が良いではないでしょうか。学校に行っている間は100%学んでいます。生涯学習と言うと、学校を出てからどういう形でいろんなことを知っていくのか、これが団体とかサークル活動になっていくのかなと思います。個人で行っていく事もあると思うので、それも生涯学習だと思います。その辺りの認識、自分は生涯学習をやっているんだと思っている人がいないのかなと思います。「学んでいますか」と問われると「学んでいます」、「色々な情報を得ようとしています」、と認識され100%に近づくのかなと思います。

事務局) アンケートという言葉が妥当かどうかですが、かつては意識調査という言葉方をされてきました。現状、皆さんのおっしゃるとおり、生涯学習という言葉自体の定義づけが曖昧になっています。このアンケート調査を通じて生涯学習という言葉の定義づけを、行政としてきちりと公布して行かなければ

ばならないという反省になってきます。

アンケートについては、町民の皆さんの現状、素直にどのように思っているのかを、行政として把握させていただく事が目的となっています。一般の皆さんより、より知っていただける立場の社会教育委員の方からも、色々な意見が出てくるということですから、もっと知る機会が必要なのだと思います。設問につきましても、今後の提案を頂くことも必要ですが、現状の行動状況だとか認識を、素直に行政として把握させていただくと言う事が意識調査になります。皆様から頂いたご意見を参考にさせていただき、設問の中にも加えていきたいと思えます。ただ、今までの経年変化を知る意味では、統一した設問も残して、ブラッシュアップしていく事も必要だと思えます。

事務局) 全体的な今後のスケジュールとしては、計画策定のための委員会的な組織をどうするのか、またその中でご意見を頂きながらブラッシュアップした形で、新しい生涯学習推進計画を策定して行こうと思っています。その前提として、このアンケートがあります。アンケートにつきましても、もう少し「生涯学習とは」というところを分かりやすく工夫していきたいと思えます。

ただ、アンケートにつきましても、本年度中に発送し、集計まで行う予定ですので、あまり期間がございませんので、修正したものをこちらから郵送等でお送りして皆様にご確認いただき、ご意見等頂ければと思っています。

委員) 先ほど言われたように、アンケートより意識調査の方がわかりやすいと思えます。

委員) アンケートというと、こちらの意見が通るのかなと期待してしまっていますが、意識調査だと成績表をつけている感じで素直に答えられます。町としての施策が上手くいっているかどうかの評価が必要なのだと思えます。もし誤って答えてしまっても、それは、認知度が低かった、など評価してもらえと思えます。

議長) 生涯学習推進計画策定委員会みたいなものは、すでに設置しているのですか。

事務局) アンケートの段階なので、今のところ設けておりません。今後、計画の策定に入る段階までには検討していきます。

議長) 皆さんの意見を踏まえた形で、アンケートの修正をお願いします。

【議題3 地域学校協働活動について】

コミュニティ・スクール推進協議会の進捗状況について、コミュニティ・スクール推進協議会委員（櫻田議長）より説明を行った。

議長） コミュニティ・スクール推進協議会が始まって、10月からすでに会議を2回行っています。この推進協議会のメンバーの中に社会教育委員が含まれており、昨年までの経過を踏まえて、私が代表として入っておりますので報告させていただきます。

まず、この協議会は、コミュニティ・スクールとは何かという所の勉強から始まり、大磯町のコミュニティ・スクールをどのような方策で作っていくかと言う事を、今年度、来年度の2年間で具体化し、まとめていくという流れで動き出しました。昨日の会議の中では、この分野で活躍されている竹原和泉さん、アメリカやヨーロッパにお住まいになり、海外でも同様の活動でご活躍されている方ですが、横浜の港北ニュータウンにある東山田中学校での学校運営協議会の立ち上げに15年ほど携わってこられたそうです。その時のご苦労や考え方を、かなり具体的に教えていただくことができました。

推進協議会主催で、竹原さんより、大磯町でより幅広い方々に向けた勉強会を開いていただけることになりました。この中で、学校運営協議会と地域の連携や活動、関わり方など、より具体的に説明をしていただけるといことなのでぜひご参加いただきたいと思えます。

地域学校協働活動についても動き出していますので、この社会教育委員会議の中でも報告していきたいと思っています。

事務局） 学校運営協議会というのは、学校の経営に色々ご意見を頂いていくのですが、それだけではだめで、地域学校協働活動、いわゆる社会教育の様々なところで活躍されている方が、実際に学校に来ていただいて、子育てや校外の活動にご協力いただいて、まさに社会教育の分野との連携がないと、運営協議会だけでは進まないと言う事を、竹原代表も強調されていきましたので、社会教育委員さんにもぜひ、研修にもご参加いただきたいと思えます。

【議題4 成人式について】

事務局から【資料】「成人式について」に基づいて説明を行った。

事務局） 成人式へは着物で出席される方も多く、早い方だと2年位前から着物の予約だとか、準備をされているようですので、開催時期について、町の考えを早めにまとめて行きたいと思っています。

他の自治体でもすでに20歳で開催すると表明しているところもあります。大磯町の成人式の場合は、町で行う式典部分と、新成人による実行委員会形式で行うつどいの部分があります。つどいの部分は、新成人を迎える子どもたちが、自ら企画・運営を行っています。また、その部分に重点を置いて開

催しているところもあります。準備が10月頃から始まりますので、つどいの企画の部分が、受験と重なってしまう事になります。また会場スペースの都合もあります。現行どおり20歳で行っていくのが良いのではないかと考えています。

委員) 青少年指導員として成人式のお手伝いをしていますが、大磯の成人式は、毎年、大磯地区、国府地区の合同で、大磯プリンスホテルで行っています。

成人式への参加は、大体70%から80%と比較的高い参加率となっていますが、18歳成人となると、受験の問題もありますので、出席率の低下にもつながってくると思います。

また、町主催の成人式が終了後、新成人による実行委員会が企画・運営する新成人記念のつどいが行われます。つどいの準備を8月頃から始めないといけないので、18歳だと受験で忙しい時期と重なってしまいますので、そんなことはやっていられない、となってしまう事も考えられるので、引き続き20歳の方がいいのではないかと思います。また、一緒に学んできた子たちが進学などで離れて、2年位して再び出会えるというのは非常にいいのではないかと思います。

事務局) 改正に合わせ、令和4年度に18歳成人式とすると、その年は18, 19, 20歳の3学年の子どもが一斉に成人になります。成人式は毎年300人程度で行いますので、その年は3学年900人が成人を迎えることとなります。会場に入ることはできますが、式典だけになることも考えられます。

また、仮に開催日をずらすとしても、運営上難しいのかなと思います。

委員) 私は、成人式は、町が定めた式典に参加したかったら参加する。というイメージがありました。成人式は成人した時に、自治体が何か言わなければならないと思っていたのですが、それが20歳のつどい変わったと言う事は、18歳成人の時には、町長からとか、何か言葉があるのでしょうか。それとも、18歳になった時には特に何もしないで20歳になった時につどいみたいなことを行うということなのでしょうか。

事務局) 18歳になったときに、何かをするのか、贈るのか、というところもこれから考えて行かなければいけないと思います。

現在行われている成人式ですが、町で行う式典部分は15分程度で、式典終了後の一時間半位が、新成人が企画するつどい、パーティーになります。

委員) 以前、拝見したことがあります。とてもいいと思います。

前半の町長の言葉などは、全国的に統一して行わなければならないのでし

ようか。

事務局) 自治体により成人式の内容もまちまちで、それぞれの判断で行っています。神奈川県内は成人の日付近で行っているところが多いようですが、全国で見ると、夏に開催しているところもありますので、それぞれの自治体の判断になります。

委員) 18歳のときに行って20歳で行ってと2回行うという事ではなく、今まで通り20歳の時に行くということでもいいのでしょうか

議長) どのようにしたらよいのかを検討していかなければならないので、皆さんの考えやご意見を頂きたいと言う事です。

委員) 20歳というと色々な意味で区切りの年齢になると思います。年齢的にも、今までの気持ち的にも18歳でというよりも20歳でというところが、子どもたちからしても意味がある年齢なのかなと思います。高校を卒業して、色々な道に分かれ、2年後に戻ってまた会えるという所に意味があって、令和4年度で18~20歳の子が一気に成人になったとしても、20歳のつどいとして、大磯町として20歳の年齢でみんな集まるという機会を設けるということに意味があると思いますので、20歳の方がいいのかなと思います。

委員) 私も、受験の事を考えると20歳の方がいいのかなと思います。

事務局) 先日、新成人記念のつどいの集まりがあり、実行委員の方が来られました。受験の話もしていましたが、18歳で学校を卒業してすぐよりも、2年位たってから同窓会的な感じでできるので、その方がいいというご意見を頂いています。

議長) 皆さん20歳ということですがけれども、世の中の状況も見ていかなければならないのかなと思います。他は18歳でやっているのに、うちは20歳でやっているという事にならないかとか、ただ、入れ物の関係でやらないというのは理由にならないと思います。

事務局) 大磯に住んでいる方に招待状をだしていますが、かつて大磯に住んでいて転出された方も希望があれば、お越しいただけるようになっています。

全国的にも20歳で開催すると表明している自治体がありますので、バラバラになってしまうのは、いかがなものか思います。

議 長) 全国的にそのような流れであれば、概ねその方向でいいのかなと思います。

委 員) 名前を変えて開催するのがいいのではないのでしょうか。

事務局) 現在、表明している自治体では、「20歳のつどい」等の名称が多いです。

議 長) 皆さんの意見を参考に、開催については検討して行ってください。
続きまして報告事項をお願いします。

7. その他

- 第50回関東甲信越静社会教育研究大会（埼玉大会 11/7～8）について
（池田副議長より報告）

議 長) 他に、質問、意見等ないようですので、本日はこれで閉会します。

(閉 会)

< 傍聴者 1名退出 >